

# 第47回 日本カトリック映画賞 「桜色の風が咲く」 授賞式・上映会＆対談



## 桜色の風が咲く

2023年6月2日(金)

神楽座

(東京都千代田区富士見 2-13-12 KADOKAWA富士見ビル1F)

17:00開場

サポートチケット:1,500円

17:00 開場

17:30 授賞式に引き続き、「桜色の風が咲く」上映

19:50 休憩

20:00 松本准平監督+晴佐久昌英神父対談

主催 SIGNIS JAPAN (カトリックメディア協議会)



JRまたは東京メトロ東西線、南北線、都営地下鉄大江戸線飯田橋駅より徒歩5分

座席数が120席と少ないため、完全予約制です。当日のチケット販売はありません。早めにお申し込みください。

チケットのお申し込みは、SIGNIS JAPAN事務局  
E-mail:info@signis-japan.org  
お問合せ担当 大沼：携帯090-8700-6860

# 桜色の風が咲く

この世界には、  
それでも光が満ち溢れてている

教師の夫、三人の息子とともに関西の町で暮らす令子。末っ子の智は幼少時に視力を失いながらも、家族の愛に包まれて天真爛漫に育つ。やがて令子の心配をよそに東京の盲学校で高校生活を謳歌。だが18歳のときに聴力も失う……。暗闇と無音の宇宙空間に放り出されたような孤独にある息子に立ち上がるきっかけを与えたのは、令子が彼との日常から見出した、“指点字”という新たなコミュニケーションの“手段”だった。勇気をもって困難を乗り越えていく母子の行く手には、希望に満ちた未来が広がっていく……。

オフィシャルサイト：[gaga.ne.jp/sakurairo](http://gaga.ne.jp/sakurairo)

製作総指揮・プロデューサー：結城崇史

脚本：横幕智裕

製作・配給：ギャガ

©THRONE / KARAVAN Pictures

2022年／日本／ピースタ／113分

## 監督：松本准平

1984年12月4日、長崎県生まれ。

東京大学工学部建築学科卒業、同大学院建築学専攻修了。吉本総合芸能学院（NSC）東京校12期生。カトリックの家庭に生まれ、幼少期からキリスト教の影響を強く受ける。NPO法人を設立し映像製作を開始して以降、根源的かつ普遍的なテーマで個性的な作品を発表。

2012年、『まだ、人間』

2014年、『最後の命』（主演：柳楽優弥）。NY チェルシー映画祭でグランプリ・ノミネーションと最優秀脚本賞をW受賞。

2017年、『パーフェクト・レボリューション』（主演：リリー・フランキー・清野菜名）。第25回レインダンス国際映画祭正式出品。

2022年、『桜色の風が咲く』（主演：小雪）。

2019年には、初の小説『惑星たち』を上梓。21年には、舞台『エデン』を初めて作・演出。

第40回香港国際映画祭（2016）、第76回ヴェネチア国際映画祭（2019）で審査員。

ほかに、連続ドラマ「ふたりモノローグ」（2017）、TVアニメ「シャドウバース」（2020）「シャドウバースF」（2022）ではプロデューサーを務めるなど、活動の幅を広げる。

## 《授賞にあたって》

映画は、光と音でつくられている。したがって、その両方を失った人物を主人公にした作品をつくることは、映画作家にとっては究極のチャレンジになるはずだ。光と音のない世界を生きる人間の真実を、光と音を用いて表現するはどういうことなのか。

松本准平監督はこれまで、最も困難な状況にある人間を描いてきた。そこにおも救いがあり、映画はその救いを語りうると信じているからだ。その監督が今回、『桜色の風が咲く』において最難関のテーマに挑み、目には見えない光を撮ってくれたことに感謝したい。

体の苦痛も心の苦痛も、誰かとつながっていれば耐えられる。であれば、誰ともつながれない孤独こそは、最大の苦痛であろう。現代人が抱える苦悩の本質は、そこにある。目が見えていても、耳が聞こえていても、誰ともつな

SIGNIS JAPAN顧問司祭 晴佐久昌英（東京教区司祭）

がっていないという孤独。しかし見よ、闇と無音の虚空に放り出された者に、母の手が触れてくる。指でことばを伝えてくる。人間にとって最も大切なものの、すなわちぬくもりのあることばを肌で聞くという、信じがたく美しい瞬間！ 実はそれは、映画そのものの美しさとも深い関わりがある。観客もまた、映画館の暗闇の中に独りで座っているのだから。

いつだって救いは、向こうからくる。神の愛の現れであるキリストが自らを「神の指」になぞらえたように、愛するわが子に触れる母の指はそのまま神の指なのだ。この映画 자체もまた、絶望の世紀を生きる多くの人の心に直接触れてくることだろう。「映画は人を救えるか」という監督自身の祈りにも似た問いに、日本カトリック映画賞をもって答えたいと思う。

## ●日本カトリック映画賞とは……

SIGNIS JAPAN（カトリックメディア協議会）は放送・映画・視聴覚メディア・インターネット等のメディアを使って、キリストのよい知らせ（福音）を広めたいと望んで、活動しているカトリックの司祭、修道者、信徒、求道者の団体です。

「日本カトリック映画賞」は、前々年の12月から前年の11月までに日本で公開された映像作品の中から、カトリックの世界観と価値観に

もっとも適う作品にSIGNIS JAPANから贈られる賞で、今年で47回目を数えます。

SIGNIS JAPAN <http://signis-japan.org>

SIGNIS ASIA <http://signisiaisa.org>

SIGNIS WORLD <http://signis.net>

1976年	土呂久
1977年	ねむの木の詩が聞こえる
1978年	春男の翔んだ空
1979年	マザー・テレサとその世界
1980年	父よ、母よ
1981年	教育は死なず
1983年	この子を残して
1984年	国東物語
1985年	銀河鉄道の夜 こんにちわ地球家族
1986年	海と毒薬
1987年	ゴンドラ
1988年	火垂るの墓
1989年	黒い雨 戦場の女たち
1990年	ベンボン子ども共和国

1991年	あーす
1992年	阿賀に生きる
1993年	スペインからの手紙
1994年	学校
1995年	地球交響曲第二番
1996年	絵の中のぼくの村
1997年	愛の暗示録
1998年	ユキ工
1999年	ナビの恋
2000年	老親
	-豪日に架ける- 愛の鉄道
2001年	GO
2002年	チヨムスキ-9.11
2003年	HIBAKUSHAS-世界の終わりに
2004年	ライファーズ
2005年	村の写真集
2006年	博士の愛した数式

2007年	ひめゆり
2008年	おくりびと
2009年	風のかたち
2010年	月あかりの下で ある定時制高校の記録
2011年	エンディングノート
2012年	隣る人
2013年	先祖になる
2014年	谷川さん、詩をひとつ作ってください。
2015年	あん
2016年	この世界の片隅で
2017年	ブランカとギター弾き
2018年	ばけますから、よろしくお願いします。
2019年	こどもしょくどう
2020年	コンプリシティ／優しい共犯
2021年	梅切らぬばか



SIGNIS JAPAN(カトリックメディア協議会)事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂8-12-42 女子パウロ会内

E-mail:[info@signis-japan.org](mailto:info@signis-japan.org)

担当:大沼 携帯090-8700-6860